

高齢者と地域の関わり

漆台向坂自治会長 横路 秀雄(83)

男が高齢者といわれる年を迎えたら、地域の自治会・長寿会に所属して地域にお礼奉公をしてほしいと思っています。女房任せにしていた地域のお付き合いや、行事に参加して、活力を入れ、盛り上げ、女性と協働した生き方をしてほしい。

それには、経済で判断してきた「儲かる」とか「利益」とかを捨てて、皆さんに喜んで頂くため



に、「世のため」「人のため」汗を流して「ありがとう」と礼を言われる声を自らの糧とすることを判断基準として、人生を再生して頂きたい。

総務省の発表によれば、65歳以上の高齢者人口は3,296万人、日本の人口1億2,707万人の25.9%、4人に1人が65歳以上となります。10年後30%に20年後33.4%と予測されています。

高齢者が主役を務めなければ、地域の活性化は成り立ちません。現役世代の強力な力添えも受けて、高齢社会が成り立っています。

9月14日(日)漆台向坂自治会敬老会を開催いたしました。話題としたところをご報告いたします。

65歳をすぎたら、考え方を改めて、「世のため人のために」を、判断基準として下さい。「過去を捨てなければ、変わらない」。

75歳を過ぎたら後期高齢者、そろそろ足腰に痛みが出る頃。「元気な人とならない人に分かれる気配が見える。「元気だねえ」といわれるようになったら秘かに優越感を感じ、ない人の元気を呼び起こしたり、援たすけ見守つてやる。

85歳を過ぎたら、今日迄培ってきた知識や技術を後輩に教え、継承させる。末期高齢者として体験を伝える義務がある。

厚労省の記事によれば、女性の平均寿命は86.61歳で2年連続世界一。男性は80.21歳で4位、香港が80.87歳で世界一でした。人生の再生期として頑張れば手の届くところ

ろにあります。

95歳を過ぎたら、整理をする。子供にいわせると、「お父さんが死んだ後は、貯め込んだ文書や本は、みんなゴミです」「知識を頂いた資料や本はお父さんの人生の宝物なのに」とのこと。ならば、過去を資源とし、生きた証しとして、本にまとめる。

105歳になったら、あの世に行った人が誰も帰って来ない、夢のような園と覚え、早く迎えに来るよう祈る。

東日本の震災から、日本は地震の周期なのか、火山も動き、温暖化で台風が大型化し、集中豪雨で氾濫し、デング熱がきたり、自然界の変り目のようです。

高齢者になったら地域で一緒に仲良く変り目を機に、防犯や防災に頑張らませんか。

日本の100歳以上は58,820人、内、女性は51,234人(87.1%)、男性は7,586人(12.8%)。

現在地域自治会では役員のなり手がなかなかいないところが多いようです。現状から脱皮して、企業も地域も女性優先時代に相応しく、性を問わず、一人一役で「らしき」をつくり、協働の輪を広げませんか。

家から一歩も出ないで、テレビを友にしていると、痴呆が忍び寄ることも懸念されます。楽を求めて、杖から車椅子に、やがて「横になっていた方が、楽ちんだよ」では、寝たきりに接近していきます。老いも若きも行事に参加して健康寿命を延ばしましょう。

自治会員のみなさまのご協力とご支援をお願いいたします。